

# 14 研究主任「校内研修だより」での授業力向上の取組

## あさぎり町立免田小学校の実践

免田小学校では、「主体的に学び合い、ともに学び合う児童の育成を目指して」という研究テーマのもと、研究主任が毎回「校内研だより」を発行し、校内研修で検討したことや授業研究会の分析結果を記載している。写真は「校内研だより」の一部である。

### 【中研の評価シートから考えられる課題】

- ・「タブレットを使うこと」に囚われすぎて、本来の授業の流れが変わってしまっている。
- ・タブレットで教師がカードを配布することで、児童の考えが限定されたり、基本となる力が育たなくなっている。
- ・タブレットで個人思考をして、それを全体共有していることで、児童のノート全体の考えが何も残らない状況になっている。
- ・「タブレットを使う」ことが目的になってしまい、「何のために、どのように」使えば効果的なのかが授業者も曖昧になってしまっている。
- ・そもそも授業を構想する段階で「ICTを使うならばこの単元（この時間）だな」と思っているのではないか。

### 【今後の実践に向けた提案（確認）事項】

- ①本年度の研究テーマの副題は「ICTを活用した算数科における協働的な学びの実現」としていますが、あくまで主たる目的は後半の「協働的な学びの実現」になり、まずは「この授業では必要ない」と判断されれば使わないのも「ICTの効果的」と感じています。まずは子どもたちの「協働的な学びの実現」を第一に授業したいと思います。
- ②紙よりもタブレットの方が優れている効果的な活用としては、「各自の意見を書き込みながらの説明」「記録を取りためて評価や振り返りに生かす」あたりだと思います。やはり紙のノートに自分の考えを残すことも重要ですので、例えば「紙のノートに書いて、そのノートをロイノートのカメラで撮影して、撮影し、実際に、タブレットで書き込みながら友だちに説明する」などの使い方をすると、しつづ、協働的な学びにもつながる活用になるかと思えます。高学年の方をする必要はなく、シンプルな活用で十分です。（個人的に人吉球磨の情報研にいただいておりますが、年々「使いすぎない、シンプルな活用」に研究がシフト）タブレットを活用いただく際には、ぜひタブレットの良さを授業者が意識していただきたいと思います。

情報担当の大園先生とも協力して、効果的な活用のパターン例を増やしていきたいので、ぜひ先生方からもご意見いただければ幸いです。

### 主体的に学びに向かい、ともに学び合う児童の育成を目指して

R4校内研だより No.5 文責：吉海

#### 第16回校内研修 熊先生大研より

前回の大会では、熊先生に算数科「たしざん（2）」の授業を公開していただきました。今回は理念ながら授業を参観させていただくことができませんでしたが、先生方のコメントから子どもたちが具体的にICTを操作しながら生き生きと学ぶ姿が見られた授業だったことが想像できました。



↑ブロックを使ってじっくり考える様子



↑説明のポイントを考えた撮影の様子

先生方に記入していただいた授業評価シートの主な分析結果は下の通りでした。（その他の項目やコメントの詳細については裏面をご覧ください）

| 【数値が高かったもの（よかった項目）】                              |      |
|--|------|
| 子どもたちの知的好奇心や興味・関心を高め、「わくわくして学習に取り組んでいる。」         | 3.50 |
| 子どもたちはICTの活用により、学ぶ意欲が高まったり、学習の理解を深めたりしている。       | 3.44 |
| 子どもたちは単元のゴールの姿が共有できている。                          | 3.40 |
| 【数値が低かったもの（今後の改善点・伸びしろの部分）】                      |      |
| 子どもたちはじっくりと考えて自分の意見をもち、それを全体で共有し合ったり、考えをより深めている。 | 2.80 |

今回も前回の熊先生からの引き続き「興味・関心を高める工夫」「ICTの活用」「ゴールの姿の共有」の3つの項目が高い結果となりました。授業の導入でハウインの帽子を取り上げたことで興味・関心が高まったとともに、「単元のゴールへの道筋」が教室に掲示してあったことが、子どもたちもゴールを共有し、単元全体の見通しをもつのに有効な手立てでした。

ICTの活用についても、今回は考え方の説明を動画で撮影する活動が取り入れられていました。友だちが説明する動画を撮影する際に、手元の操作が分かるように撮影している児童の姿が見られ、ブロックの動きにしっかりと着目できていることがうかがえました。相手に伝えるように説明することも、自分の理解をより確かなものにすることにつながっていたと思います。併せて1年生でのスムーズな操作の様子から、ICTの活用が日頃からなされていることがうかがえました。

今年度の研究授業も終わりが近づいてきましたが、「ゴールの姿と道筋を児童と共有する工夫」「児童に身近で、関心を引く導入の工夫」「ICTの効果的な活用」に先生方に特に力を入れて取り組んでいただけています。熊本の学びの実現に向けて、普段の授業でもこの3つを意識して単元デザインをしていきたいなと改めて感じました。

熊先生大変お忙しい中貴重な授業をありがとうございました！

「校内研だより」では、授業研究会での内容だけでなく、参観した教員のアンケート結果も詳細に分析し掲載しています。

数値が高かったものを「よかった項目」とし、数値が低かったものは、「今後の改善点、伸びしろ」として、研究主任が各項目に、今後の改善点等を整理して記載しています。

また、各部会の進捗状況など、普段なかなか時間がなく、校内研修だけでは共有できないことも、「校内研だより」を通して共有することができ、研究テーマの具現化にとっても役立っています。